

Title	コンテナー定期船業の競争戦略 - 北太平洋航路市場での事例を中心として -
Sub Title	
Author	小松昌弘(Komatsu, Masahiro) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第602号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0602

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

コンテナ定期船業の競争戦略 —北太平洋航路市場での事例を中心として—

近年、わが国外航海運業は、構造的不況に陥っているとされている。本論文では、定期船部門で、最大の赤字幅を記録している北太平洋航路でのコンテナ定期船に焦点をあて、国際競争のなかでのわが国船社の同市場での競争戦略を考察・提示することを目指している。

第1章で、まず問題の提起と分析方法を提示したあと、第2章では海運業の制度的な側面を概観し、定期船市場の市場構造を明らかにした。第3章では、コンテナ化と複合輸送に焦点をあて、コンテナ化した定期船サービスの特質を検討した。

第4章では、コンテナ荷動きの予測に焦点をあて、船社にとっての市場予測の方法論を提示した。

第5章では、現下の北太平洋航路市場での覇者APLが競争優位をうちたて得た戦略を検討した。また同航路市場に大きな影響を与えているアメリカ海運政策についても概観した。

第6章では、日本船社を日本郵船に代表させて、そのとり得る競争戦略について述べたが、分析の視点は、主として日本郵船とAPLの比較においた。相異なる国の相違する制度を持つ船社同士が、共通の市場に参入することに由来する定期船業の構造的要因を、種々の仮定をおきながらも除去して両社を比較すると、しかしながらAPLは決してNYKより高業績とは言えないことを明らかにした。そして同時にNYKの採用すべき戦略を提示した。